

レビューシート

レビュー項目 (事業名)	情報収集の強化等によるアライグマ・ヌートリアの被害軽減に向けた支援強化 (特定外来生物被害対策事業)				部(局)	環境部	
					所管課	自然・鳥獣共生課	
					担当班	自然環境保全班	
					連絡先	078-362-3274	
開始年度	平成18年度	終了年度	—	関連計画等	—		
事業区分	<input type="checkbox"/> 国補助事業 <input checked="" type="checkbox"/> 県単独事業						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直執行 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> その他( )				実施主体等	市町	
事業目的	市町によるアライグマ、ヌートリアの捕獲・搬入及び安楽死処分に係る実施経費の一部を助成し、迅速かつ効果的な捕獲を進め、アライグマ、ヌートリアの分域拡大・定着防止と、農林業・生活環境被害の低減を図る。						
事業概要	市町がアライグマ、ヌートリア対策として実施する①わな等による捕獲、②炭酸ガス等による安楽死等殺処分、③死体処分のためのクリーンセンター等への搬入に要する経費の一部を補助する。						
これまでの改善状況	① 令和元年度以降、市町からの要望に対応し、交付金対象に、従来の「捕獲」、「安楽死処分」に「搬入」にかかる経費を追加し算定対象事業費の上限を増額(6千円→7千円) ② アライグマ・ヌートリアを早期に地域から排除するため、捕獲目標を7千頭→8千頭に拡大。						
業務フロー	<pre>         graph LR           A[県] -- "③1/4補助" --&gt; B[市町]           B -- "①委託等" --&gt; C[猟友会等]           subgraph D [ ]             direction TB             D1[② ・わな等による捕獲 ・炭酸ガス等による殺処分 ・クリーンセンター等への搬入]           end       </pre>						
事業に要するコスト	区 分		元年度決算額	2年度決算額	3年度当初予算額	4年度当初予算額	
	事業費①		10,411千円	11,685千円	14,000千円	14,000千円	
	経費内訳	報酬・賃金	0千円	0千円	0千円	0千円	
		委託料	0千円	0千円	0千円	0千円	
		補助金・交付金	10,411千円	11,685千円	14,000千円	14,000千円	
		貸付金	0千円	0千円	0千円	0千円	
		その他	0千円	0千円	0千円	0千円	
	(財源内訳)	(国庫)	(0千円)	(0千円)	(0千円)	(0千円)	
		(特定)	(0千円)	(0千円)	(0千円)	(0千円)	
		(起債)	(0千円)	(0千円)	(0千円)	(0千円)	
		(一般財源)	(10,411千円)	(11,685千円)	(14,000千円)	(14,000千円)	
	予算額② ※精算補正前の予算を記載		12,250千円	12,250千円	14,000千円	14,000千円	
	執行率((①/②)×100)		85.0%	95.4%	100.0%	100.0%	
	人件費③(a+b+c)		従事人員 1.8人	従事人員 1.8人	従事人員 1.8人	従事人員 1.8人	
		15,119千円	14,934千円	15,724千円	15,514千円		
	職員給与費 a	13,088千円	12,938千円	13,693千円	13,518千円		
	賞与引当金繰入額 b	1,048千円	1,044千円	1,048千円	1,044千円		
	退職手当引当金繰入額 c	983千円	952千円	983千円	952千円		
総コスト(①+③)		25,530千円	26,619千円	29,724千円	29,514千円		

レビューシート

評	指標名	区 分	元年度 実績	2年度 実績	3年度 見込	4年度 目標	最終目標 【年度】
	価	成果指標(アウトカム指標①)	目 標	66,000	64,000	62,000	60,000
アライグマ・ヌートリアの被害額 (環境基本計画 計画指標の内訳)		実績(見込)	54,957	52,100	(62,000)	(60,000)	R7年度
		(単位当たりコスト)					
		達成率(見込)	120.1%	122.8%	(100.0%)	(100.0%)	
成果指標(アウトカム指標②)		目 標					
		実績(見込)					
		(単位当たりコスト)					
		達成率(見込)					
成果指標(アウトカム指標③)		目 標					
		実績(見込)					
		(単位当たりコスト)					
		達成率(見込)					
指	活動指標(アウトプット指標①)	目 標	7,000	8,000	8,000	8,000	8,000
	年間捕獲頭数 (地域創生戦略事業進捗指標) (活力あるふるさとひょうご実現プログラム)	実績(見込)	7,269	8,588	(8,000)	(8,000)	毎年度
		(単位当たりコスト)	(4千円)	(3千円)	(4千円)	(4千円)	
		達成率(見込)	103.8%	107.4%	(100.0%)	(100.0%)	
	活動指標(アウトプット指標②)	目 標					
		実績(見込)					
		(単位当たりコスト)					
		達成率(見込)					
	活動指標(アウトプット指標③)	目 標					
		実績(見込)					
		(単位当たりコスト)					
		達成率(見込)					
標	終期設定	有 ( )					無
	改善基準						
自 己 評 価	評価の視点		評価		目標に対する達成状況(総合的評価)		
	○有効性(評価指標に対する実績) ・県民ニーズを的確に踏まえた事業か ・民間での事業実施は見込めない事業か ・指標・目標設定は適切か ・活動実績は十分か ・想定された成果を達成しているか など		・アライグマ、ヌートリアによる農業被害は甚大であり、農業被害を軽減するための本事業は県民ニーズを踏まえた事業である。 ・農業被害の減少効果のある5千頭を上回る頭数を捕獲目標に設定している。また令和2年度には目標の変更を実施している。		・捕獲活動等への支援による捕獲防除が進み、農業被害額、被害面積は減少傾向にあり、令和2年度の被害額は52,100千円と、被害が増加し始めた平成18年度以降、最小の被害額となっている。 ・農業被害の減少効果のある5千頭以上の捕獲を継続しており、引き続き、年間捕獲目標を8千頭として、より一層の捕獲を進めている。 ・一方で都市部における生活被害(糞尿、人的被害)が拡大傾向にあるが、都市部における捕獲頭数が伸び悩んでいること、また、生息頭数及び生息場所を把握出来ていないことが課題である。		
	○効率性(最小のコストで最大の効果) ・業務改革に取り組んでいるか ・コスト削減の工夫を行っているか ・ICTや民間活力は活用しているか ・受益者負担は適正か ・財源確保の工夫を行っているか など		・市町交付金は、一頭あたりの上限を設定した上で交付していることから、市町にコスト削減を促す仕組みとなっている。				
課 題 ・ 今 後 の 方 向 性	<input checked="" type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 他事業と統合 <input type="checkbox"/> その他						
	説明 ( ) ・都市部における捕獲頭数の伸び悩みに対応するため、都市部特有の課題に対応する方法に関する研修を実施 ・生息数等を把握するため、生息数等推計に必要な情報収集を強化						
外 部 委 員 会 意 見	・モデル地区を設定してデータを集め、その分析結果を他の地域に展開すべき。 ・幅広いデータ収集が可能となった際には、アウトカム指標にアライグマ等のわなの捕獲効率を設定し、わなをどこに設置するのが効果的かの分析や、捕獲数、設置方法、捕獲までの時間等を分析すべき。 ・住民の力も借りられるよう普及啓発等のやり方を検討すべき。						
改善結果							

レビューシート

レビュー項目 (事業名)	新技術の活用等による有害鳥獣捕獲狩猟者の育成強化 (有害鳥獣捕獲狩猟者育成プロジェクト)			部(局)	環境部	
				所管課	自然・鳥獣共生課	
				担当班	被害対策班	
				連絡先	078-362-3463	
開始年度	平成26年度	終了年度	令和8年度	関連計画等	-	
事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 国補助事業 <input type="checkbox"/> 県単独事業					
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直執行 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> その他( )				実施主体等	県、市町
事業目的	有害鳥獣捕獲に従事する優秀な担い手を確保するため、狩猟初心者への捕獲技術習得のための研修会開催や狩猟体験会の開催等の支援を実施。					
事業概要	市町が実施する銃猟の狩猟体験会等の開催に要する経費の一部を助成する。また、県として有害鳥獣入門講座の運営や熟練狩猟者によるマンツーマン技術指導を通じて人材育成を進め、銃猟の模擬体験が可能なシューティングシミュレーターをイベントなどで活用して免許所持者を確保する。					
これまでの改善状況	令和元年度よりわな捕獲技術アップ講習会支援事業を他事業と一体的に実施することとし、本事業は銃猟の狩猟者育成に重点を置いた事業に改善した。					
業務フロー	(1) 有害鳥獣捕獲入門講座運営：県から民間コンサルタントへ委託 (2) 有害鳥獣捕獲実践研修：県で講師を選定して講師謝金で実施 (3) シューティングシミュレーター活用事業：県から兵庫県猟友会へ委託 (4) 狩猟体験会等支援事業 要望(市町)→受付・審査、内示(県)、交付申請(市町)→交付決定(県)					
事業に要するコスト	区 分		元年度決算額	2年度決算額	3年度当初予算額	4年度当初予算額
	事業費①		12,842千円	11,330千円	12,182千円	12,182千円
	経費内訳	報酬・賃金	0千円	0千円	0千円	0千円
		委託料	11,143千円	9,973千円	9,582千円	9,582千円
		補助金・交付金	400千円	300千円	1,000千円	1,000千円
		貸付金	0千円	0千円	0千円	0千円
		その他	1,299千円	1,057千円	1,600千円	1,600千円
	(財源内訳)	(国庫)	(6,421千円)	(5,620千円)	(6,091千円)	(6,091千円)
		(特定)	(6,421千円)	(0千円)	(0千円)	(0千円)
		(起債)	(0千円)	(0千円)	(0千円)	(0千円)
		(一般財源)	(0千円)	(5,620千円)	(6,091千円)	(6,091千円)
	予算額② ※精算補正前の予算を記載		13,458千円	12,696千円	12,182千円	12,182千円
	執行率((①/②)×100)		95.4%	89.2%	100.0%	100.0%
	人件費③(a+b+c)		従事人員 0.5人	従事人員 0.5人	従事人員 0.5人	従事人員 0.5人
		4,200千円	4,149千円	4,368千円	4,310千円	
職員給与費	a	3,636千円	3,594千円	3,804千円	3,755千円	
賞与引当金繰入額	b	291千円	290千円	291千円	290千円	
退職手当引当金繰入額	c	273千円	265千円	273千円	265千円	
総コスト(①+③)		17,042千円	15,479千円	16,550千円	16,492千円	

レビューシート

評価	指標名	区分	元年度実績	2年度実績	3年度見込	4年度目標	最終目標【年度】
	評価	成果指標(アウトカム指標①) シカの有害捕獲頭数	目標	21,000	23,500	23,500	22,500
実績(見込)			18,604	21,499	(23,500)	(22,500)	【R8年度】
(単位当たりコスト)			(1千円)	(1千円)	(1千円)	(1千円)	
達成率(見込)			88.6%	91.5%	(100.0%)	(100.0%)	
成果指標(アウトカム指標②) シカ、イノシシの農林業被害金額		目標	337,000	326,000	315,000	304,000	72,000千円
		実績(見込)	337,449	331,492	(315,000)	(304,000)	【R8年度】
		(単位当たりコスト)	(0千円)	(0千円)	(0千円)	(0千円)	
		達成率(見込)	99.9%	98.3%	(100.0%)	(100.0%)	
成果指標(アウトカム指標③)		目標					
		実績(見込)					
		(単位当たりコスト)	--	--	--	--	
		達成率(見込)	--	--	--	--	
評価	活動指標(アウトプット指標①) 有害鳥獣捕獲入門講座の受講者数	目標	30	30	30	30	30人
		実績(見込)	29	15	(13)	(30)	【R8年度】
		(単位当たりコスト)	(588千円)	(1,032千円)	(1,273千円)	(550千円)	
		達成率(見込)	96.7%	50.0%	(43.3%)	(100.0%)	
	活動指標(アウトプット指標②) 有害鳥獣捕獲班員(銃)育成人数	目標	40	40	40	40	40人
		実績(見込)	39	28	(22)	(40)	【R8年度】
		(単位当たりコスト)	(437千円)	(553千円)	(752千円)	(412千円)	
		達成率(見込)	97.5%	70.0%	(55.0%)	(100.0%)	
	活動指標(アウトプット指標③)	目標					
		実績(見込)					
		(単位当たりコスト)	--	--	--	--	
		達成率(見込)	--	--	--	--	
目標	終期設定	有 ( ) . (無)					
	改善基準						
自己評価	評価の視点		評価		目標に対する達成状況(総合的評価)		
	○有効性(評価指標に対する実績) ・県民ニーズを的確に踏まえた事業か ・民間での事業実施は見込めない事業か ・指標・目標設定は適切か ・活動実績は十分か ・想定された成果を達成しているか など		シカやイノシシなどの野生動物による農林業被害が多発していることから、有害鳥獣捕獲の担い手である狩猟者の確保は県民ニーズを踏まえた事業である。		・コロナの影響で入門講座受講者数、有害鳥獣捕獲班員(銃)育成人数は目標を下回った。 ・農林業被害防止や捕獲等による個体数管理を維持していくためには、引き続き狩猟者の育成を図り、捕獲実施体制の確立に取り組む必要がある。 ・具体的な課題としては、ICT等の新技術に対応できる狩猟者が不足していること、有害鳥獣捕獲班の組織力が不足していることから、効率的な捕獲が行えていないことがある。		
	○効率性(最小のコストで最大の効果) ・業務改革に取り組んでいるか ・コスト削減の工夫を行っているか ・ICTや民間活力は活用しているか ・受益者負担は適正か ・財源確保の工夫を行っているか など		・市町の狩猟体験会等の開催支援経費、県のマンツーマン技術指導経費は定額のため、コスト削減を促すものとなっている。 ・有害鳥獣捕獲入門講座は修了者に対してアンケートやフォローアップを行い効果的なカリキュラムとなるよう努めている。				
評価	課題・今後の方向性						
	<input checked="" type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 他事業と統合 <input type="checkbox"/> その他 説明 ( ・ICT等新技術に対応可能な人材を育成するため、ICT等新技術を活用した捕獲技術に関する研修を実施 ・有害鳥獣捕獲班の組織力強化のため、関係機関と連携した捕獲者育成方針を策定するとともに、組織の中核となる人材への研修を実施 )						
外部委員会意見	・狩猟免許取得者に捕獲チームに参加してもらうのには、どこがボトルネックになっているのかを明確にする必要がある。捕獲チームに入った人に入った理由をアンケート調査するなどしてはどうか。 ・現在のアウトカム指標は施策の目標となっているので、施策目標と事業のアウトカム指標は切り分けて考えなければならない。アウトカム指標は捕獲入門講座の受講者数、有害鳥獣捕獲班員育成者数とし、アウトプット指標を研修の実施回数とすべき。						
改善結果							

